

<2026年度上期(4~9月)版>

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ【全9講座】

### ●講師：CS-HK 代表 上條 仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD(品質機能展開)などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949を専門とする。1983年(株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にてISO/TS16949(現IATF16949)を認証担当 兼 全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002年(株)日立製作所退社し、CS-HK設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組む FMEA』(日刊工業新聞社)、『本当に役立つ TRIZ』(日刊工業新聞社・共著)、『常識をくつがえすモノづくり発想法講座』(工学研究社・共著)がある。

### <ねらい>

**品質コスト・不良コストの削減や重大事故防止**には、FMEA や FTA などの未然防止が有効です。そして、FMEA や FTA を有効に活用するためには下記の点が重要となります。

- ① 社員全員(技術者だけでなく、営業や管理部門、事務方など)が品質の基本的な考え方を理解すること
- ② 技術者が FMEA や FTA など品質技法の本来の意味・目的を理解して実施すること
- ③ 担当者以外の技術者(関係者)が未然防止の基本を理解すること
- ④ 上司が FMEA や FTA などの担当者が作成した書類を確認(審査・承認)できること

担当者だけが奔走し孤軍奮闘してもなかなかうまくいきません。講師はセミナーの最後に「FMEA や FTA を成功させるには、社内での仲間づくりが重要です」といつも話しています。

このような背景から、FMEA や FTA を普及・推進・浸透させるために、品質向上に取り組む企業の方々が、部門や業務に応じて必要な知識を学べるようなシリーズ講座を計画しました。組織全体の品質力の底上げに役立てていただき、品質コストや不良コストの削減に貢献できれば大変幸いです。

### <講座一覧>

1 講座から受講可能です

対象			実施日	講座	受講料
非技術者	技術者	管理職			
○	○	○	4月14日(火) 13:30-15:30	①社員全員が知りたい品質の基礎知識 【オンライン開催(見逃配信あり)】	¥ 16,500
○	○	○	5月15日(金) 13:30-15:30	②社員全員が知りたいISO9001の目的と役割 【オンライン開催(見逃配信あり)】	¥ 16,500
○	○	○	6月05日(金) 13:30-15:30	③推進・普及・浸透のために社員全員が知りたい未然防止活動の基礎知識 【オンライン開催(見逃配信あり)】	¥ 16,500
	○		6月22日(月) 10:30-17:00	④未然防止の根幹！製品開発における設計FMEAの基本と実践入門 【対面(Live配信あり)開催】	¥ 36,300
		○	7月03日(金) 13:30-16:30	⑤管理職のためのFMEAのチェック・審査・承認のポイントとFMEA関連業務のマネジメント 【オンライン開催(見逃配信あり)】	¥ 22,000
	○		7月17日(金) 10:30-17:00	⑥FMEAの基本と設備FMEA・工程FMEAへの応用 【対面(Live配信あり)開催】	¥ 36,300
	○		7月31日(金) 10:30-17:00	⑦QFDの基礎・品質表の基本とFMEA及びDR・FTAへの展開方法 【対面(Live配信あり)開催】	¥ 36,300
	○	○	8月31日(月) 13:00-17:00	⑧DR(デザインレビュー)の効果的な実施方法 【オンライン開催(見逃配信あり)】	¥ 22,000
	○		9月11日(金) 10:30-17:00	⑨不良コスト(ロスコスト)削減のためのFTAと再発防止への活用 【対面(Live配信あり)開催】	¥ 36,300

### ★特典：早期申込割引★

全講座、4月3日(金)までのお申込については、受講料を 30% 割引とさせていただきます。申込後のキャンセルは開催日の7日前まで可能です。また、申込後の受講者変更は当日まで可能ですので、受講を検討されている場合は、お早めにお申込みください。

講座 ID	tds20260414r1	ジャンル	汎用スキル (QC, ものづくり, ビジネス)
<b>品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ【全 9 講座】</b>			
<b>(1) 社員全員が知っておきたい品質の基礎知識</b>			
講師	CS-HK 代表 上條仁 氏		
日程	2026 年 4 月 14 日(火) 13:30~15:30	会場	オンラインセミナー (Live 配信)
受講料（申込プラン）	1 名 16,500 円 (税込)	備考	見逃配信があります (約 10 日間)
詳細			

**<学べること>**

- ・品質の基本について
- ・品質管理、品質保証とは、その関係
- ・事故や不良対応にも必要な基本的なこと

**<プログラム>**

I . 品質と機能

1. 品質とは
2. 機能とは
3. よい品質とは

II . 品質保証と品質管理

1. 品質保証とは
2. 品質管理

**<講義概容>**

「品質を第一に!」「品質マネージメントシステム」「品質方針」「品質目標」といった言葉をよく聞きましたか。そもそも品質とはなんなのでしょうか。それを保証する、そして管理するとは。それぞれの関係は。顧客へ製品を出すということは、品質のしっかりとしたものを見提供することです。顧客にとってよい品質とはどのようなものでしょうか。

品質不良、事故の対応は必須です。未然防止という事故や不良を前もって防ぐことが重要ですが、その基本として品質の基本を理解しておくことが必要であり、これは、技術者だけでなく、営業や企画部門を含め、製品に関わる人、全員が理解しておくべきです。

品質について、そして、品質保証や品質管理への理解、社員として、基本的に理解しておくべきことを解説します。

講座 ID	tds20260515r1	ジャンル	汎用スキル (QC, ものづくり, ビジネス)
<b>品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ【全 9 講座】</b>			
<b>(2) 社員全員が知っておきたい ISO9001 の目的と役割</b>			
講師	CS-HK 代表 上條仁 氏		
日程	2026 年 5 月 15 日(金) 13:30~15:30	会場	オンラインセミナー (Live 配信)
受講料（申込プラン）	1 名 16,500 円 (税込)	備考	見逃配信があります (約 10 日間)
詳細			

**<学べること>**

- ・ISO9001 の概要と基本的なこと
- ・品質方針、品質目標とは、監査とは
- ・監査でも特に内部監査の有効活用法

**<プログラム>**

I . 品質マネージメントシステム

1. 品質マネージメントシステムとは
2. ISO9001 の要求内容
3. 品質マニュアルと品質方針・品質目標

II . 品質保証体系図

III . 監査

1. 監査の目的と意味
2. 監査の種類・形態
3. 内部監査の必要性・意味
4. 内部監査員の役割・業務
5. 本審査に向けた対応

**<講義概容>**

みなさんの会社は ISO9001 を認証していますか。認証している場合、意識して実施していることはありますか。ISO9001 認証企業をどう思いますか。たとえば、病院でも認証しているところもあります。何をするものなのでしょう、何をすべきなのでしょう。ISO9001 をお飾りのようにすることはもったいないことです。品質方針や品質目標を理解し、自分の業務に結び付けることが重要です。

また、ISO9001 を認証している企業は、認証維持するために内部監査を定期的に実施しています。内部監査員は品質保証部員だけではありません。役立っているでしょうか。認証維持のためだけにやるのは、やはりもったいないことです。認証を維持するためにはそれなりのお金がかかりますので、業務はもちろん、会社の利益に結び付けることが重要です。

ISO9001 を認証する意味、それを活かすには、何ができるか、何をすべきかを理解しましょう。そして内部監査を改善活動に活用しましょう。

講座 ID	tds20260605r1	ジャンル	汎用スキル (QC, ものづくり, ビジネス)
<b>品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ【全 9 講座】</b>			
<b>(3) 推進・普及・浸透のために社員全員が知っておきたい未然防止活動の基礎知識</b>			
講師	CS-HK 代表 上條仁 氏		
日程	2026 年 6 月 5 日(金) 13:30~15:30	会場	オンラインセミナー (Live 配信)
受講料（申込プラン）	1 名 16,500 円 (税込)	備考	見逃配信があります (約 10 日間)
<b>詳細</b>			
<p><b>&lt;学べること&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止のあるべき姿、FMEA、DRBFM、FTA の関係、有効活用するにはどうすべきか</li> <li>・事前準備、事後処理の重要性</li> <li>・製品開発における未然防止のタイミング</li> </ul>			
<p><b>&lt;プログラム&gt;</b></p> <p>I . 製品開発と未然防止</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未然防止とリスクマネジメント</li> <li>2. 未然防止の 3 区分</li> <li>3. FMEA と FTA</li> <li>4. 未然防止活動の前後の対応</li> </ol> <p>II . 新製品開発における未然防止のタイミング</p>			
<p><b>&lt;講義概容&gt;</b></p> <p>事故や不良が起きる度に未然防止の徹底ということを聞きますね。FMEA や DRBFM、FTA を取り入れている企業も多いですが、そもそも未然防止の基本的なことを理解していないと、それらの手法も形だけとなり、有効活用できません。個々の手法に入る前に、未然防止の基本を理解しておくことが重要です。</p> <p>未然防止の基本的なことを理解したうえで、自社に、自部門にあったそれぞれの手法を使うべきです。</p>			

講座 ID	tds20260703r1	ジャンル	汎用スキル (QC, ものづくり, ビジネス)
<b>品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ【全 9 講座】</b>			
<b>(5) 管理職のための FMEA のチェック・審査・承認のポイントと FMEA 関連業務のマネジメント</b>			
講師	CS-HK 代表 上條仁 氏		
日程	2026 年 7 月 3 日(金) 13:30~16:30	会場	オンラインセミナー (Live 配信)
受講料（申込プラン）	1 名 22,000 円 (税込)	備考	見逃配信があります (約 10 日間)
<b>詳細</b>			
<p><b>&lt;学べること&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・未然防止の基本、未然防止における FMEA の位置付けの確認</li> <li>・影響度（厳しさ）、発生頻度、検出度、そして重要度のそれぞれの見方考え方</li> <li>・管理職として、FMEA を審査・承認するにあたっての見方考え方</li> <li>・顧客対応（提出用）や協力会社（下請け）依頼の FMEA の対応</li> </ul>			
<p><b>&lt;プログラム&gt;</b></p> <p>I . 未然防止とは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 未然防止と品質保証</li> <li>2. 未然防止の 3 分類</li> <li>3. FMEA と FTA</li> </ol> <p>II . 未然防止活動を始める、推進するには</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的を明確にすること</li> <li>2. 的を射ること</li> <li>3. リスク分析、再発防止、故障予測を分けること</li> <li>4. 全員の理解を得ること</li> <li>5. DR で活用すること</li> </ol> <p>III . FMEA の見方考え方（演習）</p>			
<p><b>&lt;講義概容&gt;</b></p> <p>FMEA をデザインレビューの必須としている企業も多いですが、有効に使われているか疑問を感じことがあります。資料として入っていればいいのではなく、未然防止活動に役立っていないかもしれません。FMEA を実施したが、問題が発生した。それは FMEA が悪いのではなく、やり方が間違っていたり、個人作業であったり、帳票に記入しただけで上司が確認していないというケースが散見されます。</p> <p>関係者全員が理解していないと活用できません。デザインレビューで合格になるということは、FMEA も問題が無かったということです。合格判断する側が FMEA を理解していない状況で、利用するのは間違っています。管理職としては、FMEA を作成するのではなく、確認（審査・承認）する立場です。責任があるのです。</p> <p>一般的な FMEA は影響度（厳しさ）、発生頻度、検出度、そして重要度がありますが、重要度だけでの判断ではなく、それぞれの評価についても、見方考え方があります。簡易な演習問題を通して、評価を含めて理解していただきます。</p>			

形式：対面セミナー（配信あり）

補足：オンライン配信（Live 配信）を実施します。会場受講が難しい場合はオンラインでご受講ください。

ジャンル：汎用スキル（QC, ものづくり, ビジネス）

講習会コード：t d s 2 0 2 6 0 6 2 2 r1

未然防止の考え方、FTAと比較しながらのFMEAの意味と役割を説明し、その上で、上手くいくFMEAの進め方・注意点・コツを解説し、最後にDRでの活用方法を紹介します（FMEAシートの記入方法等の解説が中心ではありませんので、ご注意ください）。

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ

### ④ 未然防止の根幹！製品開発における設計FMEAの基本と実践入門

講 師：CS-HK 代表 上條仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD（品質機能展開）などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949を専門とする。1983年(株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にてISO/TS16949(現IATF16949)を認証担当 兼 全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002年(株)日立製作所退社し、C S - H K設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組むFMEA』(日刊工業新聞社)がある。

●日程 2026年6月22日(月) 10:30 ~ 17:00

●会場 テックデザイン セミナールーム(東京 飯田橋駅/九段下駅)

●受講料 ①対面受講：36,300円(税込) ②オンライン受講：②36,300円(税込) ※見逃配信はありません  
(申込プラン) ※4/3(金)までにお申込の場合、25,410円(3割引)となります

#### <こんな方にオススメです>

- ✓ 未然防止活動やFMEAを始めようとしている方
- ✓ 認証や顧客対応のためにFMEAを行っているが、未然防止にも活用したいと考えている方
- ✓ FMEAが上手くいっていない・役立っていないため、その理由や適切なやり方を知りたい方

#### <学べること>

- ★未然防止とFMEAの考え方
- ★FMEAの基本的な進め方や実施のコツ
- ★上手くいくFMEAと上手くいかないFMEAの違い

★関連技法の知識やFMEAとFTAの違い

★DR(デザインレビュー)等での活用方法

#### <プログラム>

##### I. FMEAの考え方、未然防止活動とは

1. 本来の未然防止とは
2. 未然防止の区分け
  - a. 問題解決と再発防止 b. 故障予測
3. FMEAが上手くいらない理由と事例
  - a. 何のためのFMEA
  - b. 何故やるのか
  - c. 目的がはっきりしていない
  - d. 活用できていない

##### II. FMEAの基本的な進め方

1. FMEAの前後
2. 有効な道具とその使い分け
  - a. 品質表
  - b. 信頼性ブロック図
  - c. 機能図など
3. 効率的な未然防止活動の実施時期とは
4. 的を射る(重点化実施する)ためには
  - a. 狹く深くやる方法
  - b. 品質表の活用方法
5. きっかけ(インプット)の明確化のために
6. 設計FMEAの作成
  - a. 設計FMEAと工程FMEA
  - b. FMEAの作成手順
  - c. 効率良いFMEAの作成とインタビューFMEAの導入

##### III. FTAとの違い

1. FMEAとFTA
2. FTAの活用によるFMEAの効率アップ

##### IV. DR(デザインレビュー)での有効活用

1. DRの本来の姿とは
2. DRに対する誤解(
3. DR分類と明確化について
4. DRの効率化による未然防止の有効化

##### V. 事例紹介

1. FMEAの重点化事例
2. おかしなFMEA事例

#### <講義概容>

事故や不良が起きたときに「FMEAの徹底」や「未然防止活動の実施」といったことが言われます。しかし、FMEAを、本来の意味や目的を意識しないまま、単に「顧客対応のため」「DRで必須となっているから」といった理由で実施しても、効果はそれほど期待できません。不良や事故を未然防止するためには、FMEAの本来の使い方を理解したうえで、効率よく実施することが重要です。

本講座では、FMEAの本来の意味・目的、基本的な使い方といった基礎的なことから、効果的な実施法、DRでの活用法、事例紹介(研究)など応用的なことまで、要点をまとめ分かりやすく解説します。FMEAを始めたばかりの方や、導入を検討している方は、基本事項を学び自社での取り組みに活用してください。また、すでに実施している方は、自社のやり方と比較しながら、効率的な実施方法やコツの発見に役立てください。

形式：対面セミナー（配信あり）

補足：オンライン配信（Live 配信）を実施します。会場受講が難しい場合はオンラインでご受講ください。

ジャンル：汎用スキル（QC, ものづくり, ビジネス）

講習会コード：t d s 2 0 2 6 0 7 1 7 r1

まず、未然防止の考え方や FMEA の基本について解説し、それを踏まえて、設備や工程を対象にして、どのように FMEA を進めていくのか、その考え方を解説します。とりわけ設計部門との連携が重要になってきますので、それについて詳しく解説します。

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ

### ⑥ FMEA の基本と 設備 FMEA・工程 FMEA への応用

講 師：CS-HK 代表 上條仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD（品質機能展開）などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949 を専門とする。1983 年 (株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にて ISO/TS16949（現 IATF16949）を認証担当 兼 全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002 年 (株)日立製作所退社し、C S - H K 設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組む FMEA』（日刊工業新聞社）がある。

●日程	2026年7月17日（金）10:30～17:00
●会場	テックデザイン セミナールーム（東京 飯田橋駅／九段下駅）
●受講料 (申込プラン)	①対面受講：36,300円（税込）②オンライン受講：②36,300円（税込）※見逃配信はありません ※4/3（金）までにお申込の場合、25,410円（3割引）となります

＜こんな方にオススメです＞

- ✓ 設備 FMEA・工程 FMEA を始めたいと思っている方
- ✓ 現在の設備 FMEA・工程 FMEA が上手くいっていない（非効率）と感じている方
- ✓ 設計部門と連携して効果的な FMEA を実施したいと考えている方

＜学べること＞

- ★FMEA の未然防止活動の考え方  
★設備 FMEA と工程 FMEA の考え方

- ★未然防止に役立つ FMEA の基本事項  
★設備 FMEA と工程 FMEA の効果的なやり方

＜プログラム＞

#### I. FMEA の考え方、未然防止活動とは

1. 本来の未然防止とは
2. 未然防止の区分け
3. FMEA と FTA
4. FMEA が上手くいらない理由と事例
5. 上手くいかない工程・設備特有の理由

#### II. FMEA の基本的な進め方

1. FMEA の前後
2. 有効な道具とその使い分け
3. 効率的な未然防止活動の実施時期とは
4. 的を射る（重点化実施する）ためには
5. きっかけ（インプット）の明確化のために
6. FMEA の作成・手順

#### III. 設備 FMEA・工程 FMEA へ

1. 設備・工程 FMEA のインプットとは
2. 設備と工程を分けるメリット

#### IV. DR（デザインレビュー）での有効活用

1. DR の本来の姿とは
2. DR に対する誤解
3. DR の分類と明確化について
4. DR の効率化による未然防止の有効化

#### V. 事例紹介

＜講義概容＞

これまでの FMEA セミナーはベーシックな「設計 FMEA」を中心に解説してきましたが、生産技術部門や製造部門の方からの根強いリクエストにお応えするため、本講座では「設備 FMEA」と「工程 FMEA」の効率的・効果的な実施方法について解説します。

「設備 FMEA」と「工程 FMEA」といっても、基本的なところは変わりませんので、前半では未然防止の考え方や FMEA（設計 FMEA）の進め方について解説します。それを踏まえて後半では、設備や工程を対象にして、どのように FMEA を進めていくのか、その考え方を解説します。特に、設計部門（設計 FMEA）との連携が重要になってきますので、それについて詳しく解説します。生産技術・製造・生産管理部門の方で FMEA に興味があるという方は是非ご参加ください。

形式：対面セミナー（配信あり）

補足：オンライン配信（Live 配信）を実施します。会場受講が難しい場合はオンラインでご受講ください。

ジャンル：汎用スキル（QC, ものづくり, ビジネス）

講習会コード：t d s 2 0 2 6 0 7 3 1 r1

QFDはFMEAを製品開発・技術開発においてさまざまな面で役立ちます。本講座では、FMEAでの展開を念頭に、QFDの基本と具体的なFMEAでの展開方法を解説します。また、FTAやDRなど、FMEA以外への活用などもご紹介します。

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ

### ⑦ QFDの基礎・品質表の基本とFMEAおよびDR・FTAへの展開方法

講 師：CS-HK 代表 上條仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD（品質機能展開）などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949を専門とする。1983年(株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にてISO/TS16949(現IATF16949)を認証担当 兼全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002年(株)日立製作所退社し、CS-HK設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組むFMEA』(日刊工業新聞社)がある。

●日程 2026年7月31日（金）10:30～17:00

●会場 テックデザイン セミナールーム（東京 飯田橋駅／九段下駅）

●受講料 ①対面受講：36,300円（税込）②オンライン受講：②36,300円（税込）※見逃配信はありません  
(申込プラン) ※4/3（金）までにお申込の場合、25,410円（3割引）となります

#### <学べること>

- ★QFDの意義・目的や、“よい品質”と“顧客満足”などについての理解
- ★品質表の意味する内容（見方のポイント）と作成手順
- ★QFDからFMEAへの展開方法、FMEAの効果的な実施法
- ★FTA・TRIZ・タグチャメソッドやDRにおけるQFDの活用方法

#### <プログラム>

##### I. FMEAの基礎

1. 未然防止活動とFMEAの考え方
2. FMEAが上手くいかない理由
3. FMEAの基本
4. FMEAとQFD（品質機能展開）

##### II. そもそもQFD（品質機能展開）とは

1. QFDとは
2. 品質表とは

##### III. 新製品開発活動の課題

1. 品質の確保、よい品質とは
2. 顧客満足のしきみ
3. 新製品の開発において活用時期、タイミングとは

##### IV. QFD（品質機能展開）の実施（※概論解説）

1. 新製品開発活動における重要な点
  - ・市場ニーズの先取り
  - ・事前検討の充実
  - ・評価確認の徹底
  - 2. 品質表の作成法
    - ・市場評価
    - ・競合製品解析評価
    - ・背反確認
    - 3. QFDで期待される効果とその指標
      - ・製品企画での効果
      - ・生産準備での効果
      - 4. 今、どうしてQFDなのか
        - ・QFDの意義
        - ・他の品質技法との関連
    - ・目標の明確化
    - ・品質伝達の適正
    - ・要求品質表作成
    - ・技術特性展開
    - ・暫定目標設定
    - ・目標設定
    - ・製品設計での効果
    - ・全体での効果
    - ・失敗例

##### V. FMEAへの展開、効率向上

1. 未然防止活動の3区分
2. 品質表からFMEAへの関連付け、展開
3. 設計FMEAから工程FMEAへの展開

#### <講義概容>

不良や事故の未然防止手法としてFMEAが広く使われていますが、FMEAを効率的・効果的に実施するためには、製品のシステムや構成要素の理解と、設計上の変更点・変化点の明確化を行った上で、適切な実施項目を抽出することが重要ですが、これにはQFD（品質機能展開）が非常に有効です。QFDはFMEAなどの未然防止活動の効率向上はもちろんですが、他にも「売れる製品やトラブルのない製品の開発」、「顧客の潜在要求やボルトネック技術の発見」、「ノウハウ・課題・意思決定プロセスの共有化・視える化」、「世代交代の進む中の技術の棚卸表」、「顧客要求や仕様に対しての技術特性との関連を示す技術伝承のツール」などにも役立っています。

本講座ではFMEAでの活用を念頭に、QFDの基本と具体的なFMEAでの展開方法を解説します。最初にFMEAや未然防止活動の基本を確認した後、QFDの基本と実施のポイント・注意点について解説します。次いで、FMEAの展開について具体的なポイントを説明します（FMEAの上手くいっていない場合の多くに、実施ポイントが不明瞭だったり、的外れだったりすることがありますので、効果的なQFDの活用方法をお話します）。最後に、FTAへの展開やDRへの活用などについても事例を通して詳しく解説し、また、活用事例（成功例）なども紹介します。

##### VI. DR（デザインレビュー）での活用

1. DRとは
2. DRの目的、それに対応したQFDの活用法
3. DRの誤解
4. DRを効率よく進めるには

##### VII. 事例紹介

1. 部品メーカーでの品質表（顧客要求仕様からの展開事例）
2. 研究部門での品質表（部門間の業務効率化事例）
3. 製品開発フローへの展開事例

形式：対面セミナー（配信あり）

補足：【見逃配信】も実施します。当日の受講が難しい場合は見逃配信をご視聴ください（配信期間は10日間程度）。

ジャンル：汎用スキル（QC, ものづくり, ビジネス）

講習会コード：t d s 2 0 2 6 0 8 3 1 r1

DR（デザインレビュー）を上手く行うことで、効率的に開発設計が進み、顧客満足度も向上します。本講座では、DRを活性化させるコツ（準備、進め方、各自の役割など）解説します。

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ

### ⑧ DR（デザインレビュー）の効果的な実施方法

講 師：CS-HK 代表 上條仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD（品質機能展開）などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949を専門とする。1983年(株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にてISO/TS16949（現IATF16949）を認証担当 兼 全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002年(株)日立製作所退社し、CS-HK設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組むFMEA』（日刊工業新聞社）がある。

●日程 2026年8月31日（月） 13:00～17:00

●受講料  
(申込プラン) オンライン受講：22,000円（税込）※見逃配信つき（配信期間は10日間程度）  
※4/3（金）までにお申込の場合、15,400円（3割引）となります

#### <学べること>

- ★DRの本来の意味と目的や、ISO9001との関係が再確認できる
- ★顧客対応や設計開発を効率化するためにDRをどう活用するかの考え方を学べる
- ★自社におけるDRの課題とその原因が明確になるとともに、効果的な実施のコツがつかめる
- ★（DRの道具としての）FMEAやDRBFMの効果的な使い方が理解できる
- ★実務者（管理職）として、DRへの対応の仕方、事前準備のあり方、求められる役割などを認識できる

#### <プログラム>

##### I. デザインレビュー本来の意味と目的

1. デザインレビューの目的・効果
2. デザインレビューの誤解：意味が無い、やりたくない原因は
3. 効果のあるデザインレビューとは
4. ISO9001の要求内容
5. デザインレビューの心構え
6. デザインレビューと顧客満足：設計検証と妥当性の確認の違いと必要性

##### II. 上手く進められない、形骸化してしまう、活用できない理由、原因、事情

1. 実施時期について
2. 議論と判定、DR内容に対する出席メンバーの関係

##### III. デザインレビューの効果的な進め方、道具、コツ

1. 事前準備と報連相の必要性
2. 課題や問題の視える化・共有化の必要性、その方法・道具
3. 未然防止の考え方：FMEA・DRBFMとFTAの違い、使い分けによる有効化

#### <講義概要>

DRの取組み方に課題を感じていたり、何のためにDRを実施しているのかわからないまま導入していたり、肝心の設計開発に活用できていないことに悩みを抱えている方は多いのではないでしょうか。DRは効果的に行うことにより、顧客満足を高め、また、設計開発を効率的に進めることができます。そういったことからISO9001で要求されています。しかしながら、DRの本来の意味を忘れ、ISO9001のためだけに行っているうちに、次第にDRの機能や効果が薄れ、結果としてDRが形骸化してしまっているという場合は往々にしてあります。また、FMEAやDRBFMを導入していても、DR書類として作成しているだけで、本来の意味での有効活用がされていない場合も散見されます。

本講座では、DRの本来の意味や目的を再確認し、なぜ上手く進められないのか、活用できないのかを考えます。そして、自社の組織や事情に応じて、DRを無理なく効果的に行うコツやポイントを解説します。DRの教科書的な事細かな解説ではありません。要点を端的に述べ、そのためには現場の実務者や管理職が取り組まなければならない点について、様々な事例を交えながら解説します。

形式：対面セミナー（配信あり）

補足：オンライン配信（Live 配信）を実施します。会場受講が難しい場合はオンラインでご受講ください。

ジャンル：汎用スキル（QC, ものづくり, ビジネス）

講習会コード：t d s 2 0 2 6 0 9 1 1 r1

まず、「未然防止」の観点から FTA の考え方や役割を説明し、次いで、FTA の作成や実施手順を説明します。また、FTA を活用するためには、社内共有やそのためのシステム（しくみ）づくりも重要ですので、そのためのポイントなども紹介します。

## 品質コスト・不良コストを削減するための品質技法シリーズ

### ⑨ 不良コスト(ロスコスト)削減のための FTA と再発防止への活用

講 師：CS-HK 代表 上條仁 氏

品質技法コンサルタント。FMEA・DRBFM、FTA、QFD（品質機能展開）などを活用した未然防止や品質向上、発明的問題解決手法(TRIZ)、ISO9001、IATF16949を専門とする。1983年(株)日立製作所入社。半導体設計開発に従事した後、半導体グループ品質信頼性保証本部にてISO/TS16949(現IATF16949)を認証担当 兼 全社品質改善活動担当として品質機能展開等の日立全社での普及・展開活動を推進する。2002年(株)日立製作所退社し、CS-HK設立。大手企業を中心に品質技法コンサルタントとして活動中。著書には『本気で取り組むFMEA』(日刊工業新聞社)がある。

●日程 2026年9月11日（金）10:30～17:00

●会場 テックデザイン セミナールーム（東京 飯田橋駅／九段下駅）

●受講料 ①対面受講：36,300円（税込）②オンライン受講：②36,300円（税込）※見逃配信はありません  
(申込プラン) ※4/3（金）までにお申込の場合、25,410円（3割引）となります

#### <学べること>

★問題解決／再発防止（FTA）／故障予測（FMEA）の役割や違いと、未然防止の本来の意味

★FTAの基本的な実施手順や再発防止を含めた有効活用法

★効率的な実施法や上手くいかないときの原因など、教科書には載っていないようなコツや注意点

#### <プログラム>

##### I. 未然防止活動と FTA

1. 本来の未然防止とは

2. 未然防止の区分け（問題解決／再発防止／故障予測）

3. 未然防止活動に有効な道具とその使い分け

・品質表 ①信頼性ブロック図 ②機能図 ③QC 7つ道具  
・なぜなぜ分析 ④比較分析法

4. FTAとFMEA

・比較 ⑤期待効果  
・心構え/要点管理など ⑥失敗例

5. 効率的な未然防止活動の実施時期とは

6. FTA実施の明確化のために

・品質機能展開 ⑦信頼性ブロック図

##### II. FTAの作成

1. FTAの活用法

・未然防止のため ⑧故障解析のため

・FMEAとの併用

2. FTAの留意点

・不具合情報 ⑨類似品情報  
・メンバー

3. FTAの実施手順

・実施準備  
・不具合事象の把握と定義  
・不具合事象の要因への展開  
・各要因の重要度の評価  
・是正措置、検討結果のまとめ

4. FTAの基本的な論理記号

5. 基本事象の抽出

6. FTAの実践ポイント

7. FTAの実施例（事例）

・定量評価 ⑩定性評価 他

※事例：モータが始動しない、動力芝刈機のエンジンが始まらない

#### <講義概容>

事故や不良は後を絶ちませんが、再発防止には FTA の実施が効果的です。しかし、FTA の実施には考慮すべき注意点や押さえておくべきコツがあり、単に事務的に実施しているだけでは思うような効果は期待できません。

そこで本講座では、まず、未然防止活動の考え方や区分（問題解決／再発防止／故障予測）を理解し、その上で、FTAの基本的な実施方法や活用方法を解説します。また、効率的に実施するためのコツや、上手く実施できない、効果がなかなか現れない場合の要因とそのための是正ポイントなども説明します。なお、講義は、実務に即した具体的で明快な説明が中心で、事例の紹介や簡単な演習などを行います。

FTAを始めたばかりの方や、導入を検討している方は、基本事項を学び自社での取り組みに活用してください。また、すでに実施している方は、自社のやり方と比較しながら、効率的な実施方法やコツの発見に役立ててください。

# <お申込要項>

下記に必要事項をご記入の上、FAX にてお申込みください （※は必須です）

 FAX  
03-6261-7924

申込講座		※日付・番号（①～⑨）をご記入ください（タイトル名はご不要です）		申込プラン (複数ある場合)
会社名*				
所在地*		〒 (請求書等の送付先)		
参加者①	氏名*	TEL*		
	所属*	FAX		
	Email*	役職	@	
	会員登録	<input type="checkbox"/> 登録する <input type="checkbox"/> 登録しない	(登録料・会費はかかりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)	
参加者②	氏名*	TEL*		
	所属*	FAX		
	Email*	役職	@	
	会員登録	<input type="checkbox"/> 登録する <input type="checkbox"/> 登録しない	(登録料・会費はかかりません。お得な割引や会員イベント情報等を配信します)	
支払方法*		<input type="checkbox"/> 銀行振込（紙請求書） <input type="checkbox"/> 銀行振込（PDF請求書） <input type="checkbox"/> カード支払い <input type="checkbox"/> 未定のため後日連絡する		
支払予定日*		<input type="checkbox"/> [ ] 月 [ ] 日ごろを予定している <input type="checkbox"/> 未定のため後日連絡する		
備考*				

※【個人情報の取扱いについて】 ご記入された個人情報については、当社規定の「個人情報の取扱い」に基づき、適切に管理・運用いたします（詳細 [https://www.tech-d.jp/privacy/apply\\_privacy.pdf](https://www.tech-d.jp/privacy/apply_privacy.pdf)）。

## お申込について

① 以下のいずれかの方法でお申込みください

A	FAX	上記に必要事項をご記入の上、送信ください
B	E-mail	送信先： <a href="mailto:entry@tech-d.jp">entry@tech-d.jp</a> メール本文に<①【申込講座】②【会社名】③【所在地】④【氏名】⑤【所属】⑥【Email】⑦【TEL】⑧【支払方法】、⑨【支払予定日】>をご記入の上、ご送信ください
C	Web	<a href="https://tech-d.jp/">https://tech-d.jp/</a> の各講座のページからお申込みください

② お申込受付後、受付完了のご連絡（メールまたはお電話）をいたします

③ 請求書等をお送りいたします

## ＜注意＞

- ① お申込後 1 週間たっても受付完了の連絡がなかった場合は、お手数ですが、弊社までご連絡ください
- ② 開催日の 7 日前以内のキャンセルはお受け致しかねます。必要に応じ代理の方のご出席をお願いいたします

## お支払について

### ＜期日＞

受講料は講習会開催日の翌月末日までにお支払ください

\*期日までに間に合わない場合は、対応いたしますのでご一報ください

### ＜方法＞

①銀行振込（振込手数料は御社にてご負担願います）

②クレジットカード（支払方法はメールでご案内します）

### 【お振込先】

振込先銀行	三井住友銀行
支店	多摩センター支店（909）
口座番号	（普）0973522
名義	株式会社テックデザイン

主 催 申込・問合先	名 称	株式会社テックデザイン（ <a href="http://www.tech-d.jp/">http://www.tech-d.jp/</a> ）		
	住 所	〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 1-12-15 九段大和ビル 3 階		
	電 話	03-6261-7920	FAX	03-6261-7924
	E-mail	entry@tech-d.jp (申込) / info@tech-d.jp (問合)		